



## ヴェネツィア —美の都の二千年—

宮下規久朗著

岩波書店 2016 (岩波新書)

所蔵館 請求記号

本館：X/081/95V/1608

神田分館：X/081/95V/1608

### [著者プロフィール]

宮下規久朗 (みやした きくろう)

1963年8月16日生

日本の美術史家

専門はイタリア17世紀バロック美術

神戸大学大学院人文学研究科教授

## 佐々木 浩二 (経営学部准教授)

118の島からなるヴェネツィアは、2000年ほど前にラグーンを開発してできた水上都市です。建国は421年3月25日、キリスト教の受胎告知の日です。塩湖であるために古来より塩が採れ、これを交易して都市を形成するようになりました。

セルジুক্তルコにアナトリア地域を奪われた東ローマ帝国の皇帝が、ローマ教皇に援軍を求めたことを起源とする十字軍…

第1回遠征から100年後の1201年にはじまった第4回遠征では、ヴェネツィアに払う船代にもことかく有様でした。船代を"稼ぐ"ために、十字軍という名の荒くれ者はカトリック国ハンガリーの都市ザラを蹂躪します。これに激怒したローマ教皇インノケンティウス3世は十字軍を破門したものの、お金の事情を知るや赦してしまいます。

この十字軍は東ローマ帝国のお家騒動に乗じ、あろうことか首都コンスタンチノーブルを攻め落とします。「東ローマ帝国は1453年に滅びた」と

習ったのですが、帝国の栄光はこのとき潰えました。援軍であるはずの十字軍に首都を破壊されるとは…

コンスタンチノーブルから持ち去られた財宝は、"アドリア海の真珠" ヴェネツィアの富の基礎となりました。観光客が大挙押し寄せるサン・マルコ広場の寺院や宮殿に収蔵された財宝には昏い謂れがあります。

本書には、こうしたヴェネツィアを彩る光と影がちりばめられています。新書には珍しく、カラー画像がふんだんに盛り込まれ、美術に疎い人でも読みやすいです。

そして、あとがきの最後の1ページまで読むと、衝撃的なことにぶつかります…

善も悪も 喜びも悲しみも すべて海に還る  
涙のしずくもやがてアドリア海の真珠に…  
(筆者が過日匿名ブログに書いたものを再構成してまとめました)